

日本の宗教、教育、社会事業を視察のため、來朝した滿洲國道德會

訪日視察團長岳興華氏ほか二十名はさる五月二十九日夕刻來阪し

たので本聯盟では滯阪中一行を案にて薙刀試合を見學後茶の湯の接

内、三十日は午前九時府廳を訪問待をうけ四天王寺および境内、四

天王寺施療病院を見學して午後

三時府社會事業會館に至り長部社

會事業主事から會館並に本聯盟事

業および大阪社會事業の一般につき聽きそれより青年塾堂を視察、

翌三十一日は觀光艇で折柄の雨に

煙る水都大阪を一巡わが國產業心

臟部の力強い動きに驚きの眼をみ

はり、午後は大阪市役所、滿洲帝

國駐大阪名譽領事館、大阪朝日新

聞社、造幣局を訪問、六月一日は

鐘紡淀川支店、大阪毎日新聞社、

富民協會を視察し二日朝廣島へ向

け出發した

勤勞報國團結成さる

全市一萬の登録労働者

者が團結

大阪市内六ヶ所に所屬する登録労

動者一萬人が大同團結し汗の愛國

を誓ふ「大阪市登録労働者勤勞報

國團」結成式は六月五日午後三時

から大阪天王寺區夕陽ヶ丘青年塾

堂で舉行、力強くも頼母しい銃後

の勤勞奉仕ぶりを示した、この日

の結成式には京橋、西成、築港、千

鳥橋、淡路、今里の六勞働紹介所登

錄労働者一千二百名が「赤心會」

「至誠會」「勤勞會」等々の團旗を

挙と鏽し定刻三時には一人の遲刻

者もなくさすがに生産都大阪の產

業第二軍を負つて立つ産業戰士

としての緊張味を示して參集、麥

蒸の日よけ帽、眞黒に燒けた赭額

を健康的にズラリとならべた、結

成式は渡邊市社會部保護課長の開

會の挨拶にはじまり戰殘將士に對

する一分間默禱のち西成労働者其の

誠團の幹事（工事現場世話係職）

佐藤嘉一郎君が宣言文を朗讀

片岡立翁君の綱領朗讀、千鳥橋

労働奉仕團幹事（仲仕職）木和田

京橋労働赤心會の幹事（土工）

谷吉君の申合せ事項朗讀があり

來賓の小畑大阪市職業紹介事業

片岡立翁君の綱領朗讀、千鳥橋

西成労働赤心會

役員會長、府學務部長代理那須

府職業課長らの祝辭があつて萬

歳を三唱、宮川松安の浪曲をき

き坂間市長揮毫染「勤勞報國」の

手拭をお土産にもらつて解散し

昭和十三年六月五日
京橋労働赤心會
西成労働至誠團
千鳥橋労働奉仕團
淡路労働十五會
今里勤勞會
右宣言す

千鳥橋紹介所に組合
千鳥橋労働紹介所の自由

労働者六百五十名は昨年十月以來

毎日五錢十錢と零細な貯金をして

まつたが事變下銃後の護りも頼も

しく左の八優良託兒所が選ばれた

池田府知事、鈴木學務部長、大

阪市立千鳥橋労働紹介所の自由

労働者六百五十名は昨年十月以來

毎日五錢十錢と零細な貯金をして

まつたが事變下銃後の護りも頼も

しく左の八優良託兒所が選ばれた

池田府知事、鈴木學務部長、大

阪市立千鳥橋労働紹介所の自由

労働者六百五十名は昨年十月以來

毎日五錢十錢と零細な貯金をして

まつたが事變下銃後の護りも頼も

しく左の八優良託兒所が選ばれた

池田府知事、鈴木學務部長、大

阪市立千鳥橋労働紹介所の自由

労働者六百五十名は昨年十月以來

毎日五錢十錢と零細な貯金をして

は二十五圓の愛國公債一枚づつ買ひこんだので、こんどは更に第二の目標年末まで一萬圓の貯金を目指す「千鳥橋登錄労働者貯金組合」をつくることとなり、五月三十日午後七時から同所で結成式を行つた。同皇軍將兵に感謝の黙禱を捧げ、労働者の代表者が貯金と申合せ菅日本興國同盟主事の講演を聞いて散會した。

聾哑生徒に授産所を

渡邊、矢島氏ら奉仕の彩管

「可憐な聾哑生徒のため授産所を」と彩管奉仕をつづけてゐた府立聾口話學校囁託渡邊由造、矢島周一兩氏半歳の苦心がやうやく實を結び、その作品百點に赤松麟作藤堂奎三郎氏ら十畫伯の贊助出品

を加へ約二百點の油繪展覽會は六月六七兩日「そごう」七階演藝場で同授產所建設後援會主催、府教育會、大毎社會事業團、聾口話學校保護者會らの後援で開催された。同會ではこれを基金に有志の寄附、府の補助金などで最も斬新な授產所を建てるが、その経費見積りは約十萬圓である。授產所の機構は授職と生產の兩部とし、授職部では木材工藝、美術印刷、和洋裁縫などを中心に同校職業科と連絡して十分の腕が出来上れば生産部へまはり生産經理、算盤などに習熟したうえ社会へ送り出されることにな

事室に於て舉行された、大阪府に於ける表彰は毎年四、五ヶ所に止まつたが事變下銃後の護りも頼もしく左の八優良託兒所が選ばれた。池田府知事、鈴木學務部長、大

阪市立千鳥橋労働紹介所の自由労働者六百五十名は昨年十月以来毎日五錢十錢と零細な貯金をしてまつたが事變下銃後の護りも頼もしく左の八優良託兒所が選ばれた。池田府知事、鈴木學務部長、大

方面常務より中野委員取扱の醫療

保護、戸籍整理並に母子保護法に

依る生活扶助の報告、金子春日出

方面常務より木村委員取扱の醫療

保護、大毎更生義金借入の世話其

他生活上の世話をなせる報告あり

辻田柴島方面常務より西田委員取

扱の居宅救護中の頑固なる聾の老

人に關する苦心の取扱報告、曾野

中本第二方面常務より之れと類似

せり十九歳の頑固なる老婆の取扱

報告があつて全取扱報告を終了、

最後に田坂大阪市社會部長、安達

保護係長より夫々就任挨拶があつ

て三時過ぎ散會した

なほ五月中に府下の全方面委員事

務所で取扱つた件數は左の通りで

ある

相談指導八三〇、保健救療五九九

五、育兒教學二二五、周旋紹介二

九六、戸籍整理一九三、金品給貸

與二八四二、其他一七〇九、合計

ドモ愛育會長▼瀧田友生——金澤醫

立今宮保護所主任(敬稱略)

研究員、文博▼平田隆夫——大阪商大
府社會事業主事補▼峰一夫——大阪
經濟研究所研究員▼大石兵太郎——
少年職業指導研究會▼藤本太一——
關學大學教授▼伊阪春——梅井村コ
北支派遣宣撫官▼郡昇作——大阪市

定 一部	金五拾錢	廣 告 料
半ヶ年金參	圓	
壹ヶ年金五	圓	金貳拾圓均一
(第三種郵便物認可)		
(昭和十三年七月一日納本) (毎月二十八日納本)		
(大阪市住吉區鶴本町一二番地)		
編輯兼　津　守　陸　太　郎		
(大阪市北區瀬崎町一八番地)		
印刷人　林		
(大阪市天王寺區伶人町)		
大坂府社會事業會館内		
發行所　大坂府社會事業聯盟		
(電話天王寺六八七五番地)		
印刷所　大　阪　出　版　堂		
(電話北五五一五番地)		
節		

大阪市天王寺區伶人町
二四番地
大坂府社會事業會館内
大坂府社會事業聯盟
(電話天王寺六八七五番地)

大坂市北區瀬崎町一八番地
編輯兼　津　守　陸　太　郎
印刷人　林
大坂府社會事業聯盟
(電話天王寺六八七五番地)

母子榮養食堂に關する報告書

頒價實費
金七十五錢

本書は、大阪府社會事業聯盟が、昭和九年秋の關西風水害の罹災による妊娠婦及び小兒の榮養障害恢復を目的として昭和十年四月より二ヶ年、大阪・堺兩市内に開設した四母子榮養食堂の實施成績報告書であるが、計畫當初からこの事業に指導的援助を與へ親く補給者の榮養狀態を觀察した大阪市立扇町產院長醫學博士余田忠吾、大阪市立衛生試驗所技師茶珍俊夫、四天王寺施藥療病院醫長醫學博士村田定諸氏の執筆になる、各専門分野に立つ理論的文獻がごの家庭にもその日から應用できるやう平易に併せ掲げられたる點正に榮養讀本とも言ふべきである。

戰時下において食品衛生の合理化が要請される今日、當時關係事業界にセンセイションを惹起したこの榮養食堂の驚異的諸記録が一巻の書となつて上梓されたことは洵に意義深く、ここにこれを江湖に推奨する。

榮養食の獻立
榮養食の酸度とアルカリ度ほか三)
榮養食の常識(第一章 何の爲めに食物を食べるか、第二章 榮養素の種類とその作用、第三章 榮養素概說 第四章 保健食と献立、第五章 料理と衛生、第六章 子供の健康と食物)
醫者の立場より見たる榮養食堂の成績

内 容

榮養食堂に就て
榮養の常識(第一章 何の爲めに食物を食べるか、第二章 榮養素の種類とその作用、第三章 榮養素概說 第四章 保健食と献立、第五章 料理と衛生、第六章 子供の健康と食物)
醫者の立場より見たる榮養食堂の成績
榮養食の獻立
榮養食の酸度とアルカリ度ほか三)

社會事業研究 七月號目次

職業的適應の缺陷 桐原 葵見 一

ナチスの社會事業 平田 隆夫 八

ナチス獨逸に於ける女性教化の機構 大石兵太郎 二六

農村を乳兒の死亡と結核の慘害より救へ 伊阪 春 三三

「愛育村」金丸村に就て 灌田 友生 四三

乳幼兒保護の實際 本多 ちゑ 五六

盲人の職業問題 附教育問題 本庄 實 四九

スイスの職業指導 村川 敬藏 五五

歐米に於ける職業紹介事業 有賀 彰平 七〇

時局を反映せる高小卒業生の就職傾向 峠 一夫 七九

稻田良水師の社會的業績 藤本 太一 八二

ルンペン雜考 郡昇作 九四

報情生厚阪大

大阪府協和會四隣保館を増設	一四	優良八託兒所に慈愛旗	一一九
社會事業會館二周年記念講演會	一四	幼兒の基準體格表をつくる	一一九
梶原教授「都市保健問題」講演	一四	院兒の心や切々「母の日」	一一九
クック女史を送る謝恩惜別の會	一五	五ヶ年勤続者表彰式	一一九
滿洲道德會訪日視察團	一五	關西私設社會事業者の懇談會	一一九
勤勞報國團結成さる	一六	宿泊保護事業協議會	一一九
自由労働者らが毎月一圓以上の貯金	一六	谷田元檢事長追憶會	一一九
聾啞生徒に授產所を	一七	六月定期方面常務委員聯合會	一一九
ライト・ハウス内に母子健康相談所を	一七		